

念のために
知っておこう

もしも新型コロナウイルスにかかったら？

どうする？
どうなる？

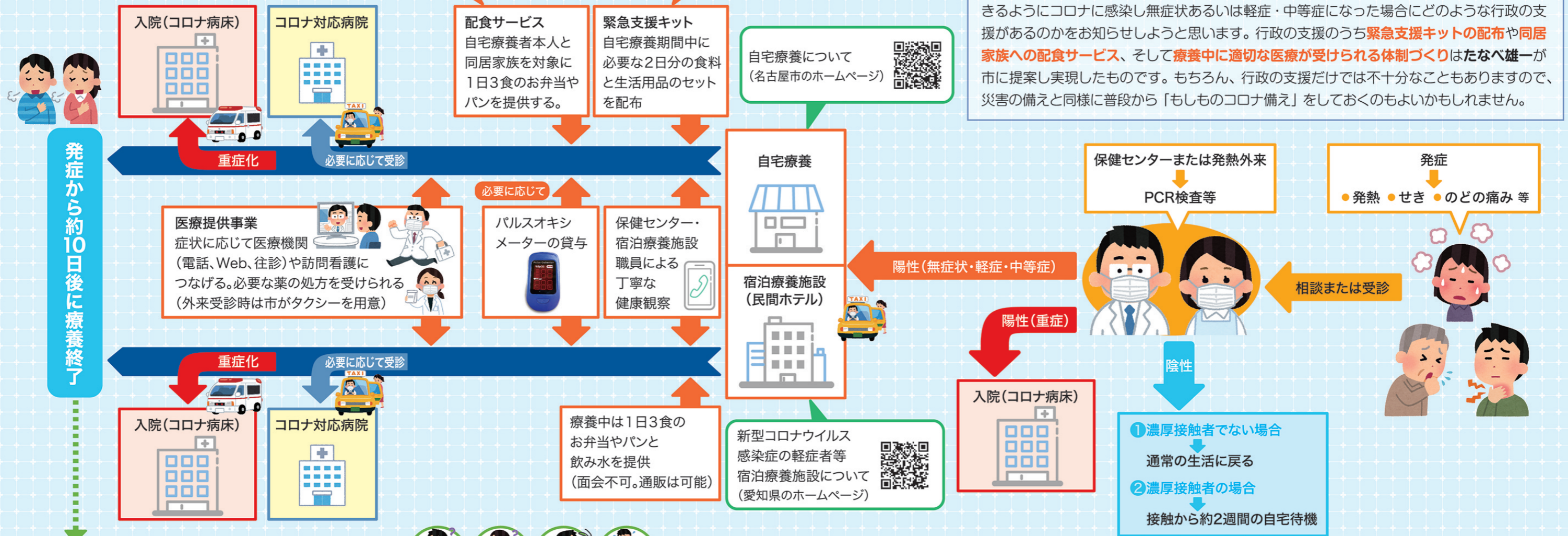


参考 配食サービス 食事イメージ



緊急支援キット

名古屋市内の新型コロナウイルス感染者の累計数は37,470名（9月5日時点）になり、健康観察対象者は9,910名（9月5日）と過去最大規模になっています。コロナ患者の多くは無症状または軽症・中等症で自宅や宿泊療養施設で療養することになります。昨年来、**たなべ雄一**にも「家族がコロナにかかってしまいました」というご相談が寄せられています。感染拡大第5波の中で、「いつ・誰が・どこから」感染してもおかしくない状況です。ここでは、万が一の心構えができるようにコロナに感染し無症状あるいは軽症・中等症になった場合にどのような行政の支援があるのかをお知らせしようと思います。行政の支援のうち**緊急支援キットの配布**や**同居家族への配食サービス**、そして**療養中に適切な医療が受けられる体制づくり**は**たなべ雄一**が市に提案し実現したものです。もちろん、行政の支援だけでは不十分なこともありますので、災害の備えと同様に普段から「もしものコロナ備え」をしておくのもよいかもしれません。



もしも「後遺症かな？」と思ったら

新型コロナウイルスの治療や療養を終えた方の中にはいわゆる「後遺症」と呼ばれる症状に悩む場合があります。後遺症には味覚障害や嗅覚障害または抜け毛や息切れ、血栓などがあり、症状の程度や期間は人によってまちまちなようです。国では後遺症についての調査が進められていますが明確な治療方法は確立されていません。**たなべ雄一**は今年2月から千種区医師会に対応を要望し、新型コロナ後遺症の相談に応じていただける区内の医療機関を募りホームページに掲載して頂きました。公明市議団は市に対して市立大学付属病院に仮称「新型コロナウイルス感染症後遺症外来（または相談窓口）」の設置を要望しています。



千種区医師会のホームページはこちら



コロナ患者の重症度分類と療養方針

重症度	酸素飽和度	症状	療養方針
無症状	—	—	基本自宅(宿泊も)
軽症	96%以上	呼吸器症状がなく、せき、発熱、倦怠感など	
中等症Ⅰ (呼吸不全なし)	93%超 ~ 96%未満	呼吸困難、肺炎の所見	原則入院
中等症Ⅱ (呼吸不全あり)	93%以下	酸素投与が必要	
重症		集中治療室(ICU)入室、または人工呼吸器が必要	

重症化リスクを考慮し医師が判断

【編集者注】自宅療養及び宿泊療養施設に関する行政サービス等は編集時点(令和3年9月1日)における名古屋市の事業です。新型コロナウイルスの行政支援は自治体によって異なりますのでご注意ください。